



夏野菜、育苗中



ミニトマトの種はゴマ粒より小さく吹けば飛ぶような種。それがこんなに立派に育って来ました。



ナスは同じナス科のミニトマトと比べると、種は少し大きく葉っぱも幅広でしっかりしています。



小さなセルトレイから1本1本抜いて育苗用ポットに移植していきます。これを「鉢換え」と言います。

★今年も小さな種から育てています

とても温暖な気候が続いていますが、夏野菜のミニトマトとナスの苗がとても順調にすくすく育っています。

毎年、高柳場長は種から夏野菜を育てています。ミニトマトはゼリー状の中にあるあの粒々したものが種なので、乾燥された状態だとゴマ粒よりも小さくまさに「吹けば飛ぶようなもの」。それをセルトレイという小さな苗床に1粒1粒蒔くのですが、土におろすと「あれ？ここに蒔いたかな？」とわからなくなるほど小さいため、種蒔き時は集中力が大切なのです。

種を蒔いたトレイはハウスの中の温床に置き、さらにトンネルをかけて保温して育てます。1週間から10日ほどでようやく芽を出すのですが、根を出し本葉を出して自分の力で育つようになるまでは、暑さでやられないよう換気をしたり水を適度に与えるなど、毎日、目配り気配りが欠かせません。「ピカッと照る日はトンネルの中はすぐに40℃を超しちゃう。すると苗は焼けちゃうんだよ。だから気が抜けないんだ」

気配りしながら育てて1ヶ月、見事に育った苗はポットへ鉢換えする日を迎えました。ポットに住処を移してこれからさらに1ヶ月、同じように手助けしながら育てることで、4月半ばにようやくハウスへ移植となります。ナスもミニトマトも夏に食べる野菜ですが、栽培期間は2月の種蒔きから始まっているので長丁場。それだけ時間と手間をかけて育てているんですよ。

おかげさま農場は「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎端境期で野菜の種類が不足する季節です。また春は天候が不安定なため葉野菜などが途切れる場合があります。なお、人参は4月上旬で終了予定です。